



6月21日
新型コロナウイルス蔓延防止発令中！

部員	87名	新入会	
U12	31名		
U11	12名	井口 蒼真 イグチ ソウマ	小東山小
U10	14名		
U9	16名	青木 美玲 アオキ ミレイ	神の谷小
U8	9名	廣常 唯人 ヒロツネ ユイト	妙法寺小
U7	5名		



最近のドラマから

あまりテレビをみない私ですが、パートナーと子どもたちが観ていたので少しみていると面白い番組に出会いました。

「ドラゴン桜」 弁護士が学園に入り、様々な工夫で生徒を東京大学に入学できるよう奮闘する物語。体を動かした方が、学習内容が頭に入る！などは、わたしも若い時に感じたことです。その中で次のようなセリフがあります。

「勝手に祭り上げ、勝手に諦め、そして勝手にコンプレックスを抱く。成功している人間は、それはもともと才能があったからで、自分はもともと平凡な人間だから努力したって無理だ、そういう思い込みが人の人生をどれだけ窮屈に縛りつけてることか。世の中に越えられない壁なんてねえんだ。だからおメエら、どんなことにもできないという先入観を持つな。」

「どうせ、おれには無理だから」そんな言葉を発する前に、「ひょっとしたらできるかも」そんなことが思える自分でいたいですね。そして、そのような思いをもつためには、大人の言葉かけや見守りが大切なのは言うまでもありません。「あぶないから」「あんたができるわけがない」ついつい言ってしまうがちな大人の思いこみ。「いっかいチャレンジしてみたら？」の言葉が生まれる須磨ナイスでありたいですね。

監督 有持 哲治



5月に池上正さん主催のサッカーイベントに参加してきました。池上さんは「JFA公認キッズリーダーインストラクター」でコーチのコーチという方です。

「離れて見守ろう」というテーマで、試合中はもちろん、休憩時間も指導者・保護者は関わらないというものでした。そういう環境の中で選手たちに「どうするかを考えさせる」という目的です。

試合中、池上さんの横でいろいろな質問をし、話を聞きました。すべてに共通することは「サッカーを通じて選手たちに考える『力』を養わせる」という事でした。

これは私生活に置き換えても言えることですね。「一から十まで指示・声掛けしない」「教え過ぎない」「過保護にし過ぎない」という事だと思います。理解はできてもなかなか実践は難しいですね。

今、5年生にいろいろな事を任せようとしています。最終的には自分たちのやりたい戦術・やりたいポジションで試合をしてもらおうと思っています。

自分たちで決めさせると「もめ事」が増えます（笑）。時間もかかります（泣）。

口出ししたいところをグッと我慢して見守ろうと思っています。「自主性」を育てて難しい事だとはわかっていますが少しでも身に付けば…と期待しています。さあ、卒業時にどうなっているか乞うご期待…（ ^ω^ ）

U-11 寺尾コーチ



【自己管理・・・子どもたち自身でできることで自信を！】
【子育て・・・手は掛け過ぎず 眼をかけて・・・】
【明るく楽しく元気よく！・・・子は親の鏡】

BGM